

大会発表報告

社会的養護における人材育成 ～法人レベルでのあたらしい実践について～

木塚 勝豊

(平安徳義会養護園 特任スーパーバイザー)

1. はじめに（現場や発表者の紹介、取り組みの背景など）

わたしは、京都市にある児童養護施設、平安徳義会養護園において33年間奉職し、現在は大谷大学教育学部准教授、施設においては特任スーパーバイザーとして仕事している。今回は発表の場を得て、社会福祉法人平安徳義会の『人材の確保・定着・育成』の実践について発表したい。

社会福祉法人平安徳義会は、毎年のように職員が定着せず確保もままならない状況を打破すべく、法人（とりわけ、本部を置く乳児院と児童養護施設）としての対応を模索した取り組みについて報告したい。社会福祉法人平安徳義会は、1890年に創設され、来年130周年を迎える。町医者が仲間とともに創立した稀有な存在であり、明治期の児童保護事業から一貫して児童分野のみ実践する法人である。

2. 取り組み内容（どのような実践をおこなっているのかと、その視点、内容）

人材確保において、施設見学会（4月から7月に毎月実施）や大学と連携した施設見学会の実施、7月から採用試験（年間3回と随時）を実施し、内定者研修で本採用に繋げる。採用者は赴任日から始める新規採用者研修で①必要な知識の習得、②OJTによる技術習得、③仕事における倫理観の醸成を行う。また、メンター制を導入し、円滑な人間関係を先輩職員から学ぶことで定着・育成している。

- (1) 施設見学会 2012年度、年2回（5・6月）から始めた。当初、就活のみを行っていたが、10人に満たない見学会で学生も緊張しており実質的に採用に結びつくことなく終えた。私はその当時より複数大学において非常勤講師をしており、授業を通して施設理解してもらい就職に結びつけていた。2013年度より、前年の反省を踏まえ、年3回（5・6・7月）とし、当該年度の実習予定学生のプレ実習オリエンテーションと位置付け、平服で参加してもらうようになり、就活学生もリラックスして参加できるようになった。就活学生は前年度と同じくらいであったが、実習生を含めると毎回30人を超えた。2014年度以降は、年間4回（4月から7月に毎月

実施)とした。年度によってばらつきはあるが、就活学生は30～50人程度であり、5年間で15名程度(わたしの授業を受けた学生のカウントが難しいのだが)の確保に至っている。我が施設の就職に結びつかなかった就活学生も可能な限り追跡調査したところ、他の社会的養護施設への就職になっている。他の影響を考えると必ずしも施設見学会によるところが大きいかと言えば分析は難しいが、卒業年度の早い段階での見学が少なからず影響していると過信している。

(2) 大学と連携した施設見学会の実施 施設見学会の実施以前から1短期大学・1専門学校の施設見学会(年度によってばらつきはあるが、参加学生は100人を超える)を実施していたが、2016年度より1短期大学が増え(年度計300人超)、2019年度より1大学が増える(年度計400人程度)ことになる。

(3) 内定者研修 本年度より実施し、過日3回目の研修を終えた。結果的には11名内定者のうち2名が内定辞退したが、前述の3回(①必要な知識の習得、②OJTによる技術習得、③仕事における倫理観の醸成)の研修により採用者同志の親睦と次年度以降の仕事へのモチベーションはアップした。

(4) メンター制 新規採用職員にとって身近な先輩職員にメンター役を依頼し、事細かに職場定着のための支援を実施した。実際には、メンター制が機能している新規採用職員は定着し、機能していないメンター制においては不安定な心理状態の新規採用職員も見受けられた。

3. 取り組みの成果(どのような効果がみられたか/分析)

数値的な成果については前述したが、試行錯誤しながら取り組んだ結果として、その効果について論じたい。

(1) 法人の姿勢 採用までのプロセスを可視化することで、現場とともに余裕の持てる採用人事が可能になった。

(2) 現場職員の姿勢 職員採用について法人任せから現場も採用に関する試行錯誤がみられた。

(3) 施設見学会に対する考え方 他施設と競うという人材確保ではなく、社会的養護

施設について学生に広く知ってもらうことで、社会に還元できているという考えが芽生えてきた。

4. 今後の課題（新たに見えてきた課題や今後の計画）

- ・施設見学（就活）から採用試験へ
- ・『確保～定着～育成』から『養成～確保～育成～定着』へ
- ・実習からアルバイトへ、H Pからのアルバイトへ
- ・確保 アルバイトから正規職員へ
- ・採用活動を勤務・予算に位置付ける
- ・社会的養護に特化した就職フェアの実施
- ・職員が仕事を『見える化（可視化）』することで、仕事の透明性を確認
- ・その他

以上.